

Economic Indicators

発表日: 2024 年 9 月 13 日 (金)

主要経済指標予定 (2024 年 9 月 16 日～9 月 20 日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(9 月 16 日～9 月 20 日の主なイベント、指標予定)

	指 標 名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
9 月 16 日 (月)					
9 月 17 日 (火)	13:30 7 月第 3 次産業活動指数 (前月比)	+1.0%	—	—	▲1.3%
	13:30 7 月商業動態統計・確報 小売業販売額(前年比)	—	—	—	+2.6%
9 月 18 日 (水)	8:50 8 月貿易統計 輸出金額(前年比)	+7.0%	+9.9%	+5.5%～+14.4%	+10.2%
	輸入金額(前年比)	+5.5%	+13.4%	+5.5%～+18.3%	+16.6%
	貿易収支(原数値、億円)	▲8,719	▲13,372	▲17,264～▲7,620	▲6,287
	8:50 7 月機械受注統計 船電除く民需(前月比)	▲0.6%	+0.4%	▲1.2%～+2.8%	+2.1%
9 月 19 日 (木)	8:50 4～6 月期資金循環統計 金融政策決定会合(～20 日)				
9 月 20 日 (金)	8:30 8 月消費者物価指数(全国) 全国総合(前年比)	+3.0%	+3.0%	+2.9%～+3.2%	+2.8%
	全国コア(前年比)	+2.8%	+2.8%	+2.7%～+3.0%	+2.7%
	14:00 8 月コンビニエンスストア統計 既存店ベース売上高(前年比)	—	—	—	+0.4%
	日銀総裁定例記者会見				

(注) 市場予測・レンジは Bloomberg、日経 QUICK 調査をベースに作成



8月貿易統計・貿易収支額（原数値） 当社予想：▲8,719億円 中央値：▲13,372億円

8月の貿易収支を▲7,608億の赤字（季節調整値）と予想する。8月は円高の進行により輸出価格、輸入価格が名目金額を押し下げたものとみられる。物価変動を除いた実質輸出は低調さが続いているが、8月は生産が好調な半導体関連を中心に増加したと予想する。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

7月機械受注・船舶電力除く民需 当社予想：前月比▲0.6% 中央値：同+0.4%

7月の機械受注（船舶電力除く民需）は前月比▲0.6%と予想する。堅調な製造業の一方で、このところ減速感の強い非製造業が足を引っ張り、2か月ぶりの前月比マイナスを見込む。コア機械受注は、国内消費の低迷や海外需要減速による下押しを受けて冴えない動きが続いており、前回公表された7-9月期内閣府見通しでも横ばい圏内に留まる見込み。好調な企業収益が下支えとなることから増加傾向は維持すると見込むも、7-9月期も緩慢な動きが続くだろう。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

8月全国消費者物価指数（生鮮食品除く総合） 当社予想：前年比+2.8% 中央値：同+2.8%

CPI コアは前年比+2.8%と、前月から上昇率が拡大すると予想する。前年の裏の影響で電気・ガス代が上昇率を高める一方、ガソリン・灯油が前年の裏により下落に転じるため、エネルギー価格は7月から大きな変化はないだろう。一方、エネルギーを除いたコアコア部分が伸びを高めることが押し上げ要因になるとみられる。

（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

